

---

## 人間中心のAI(人工知能)とIT(情報技術)を活用する「みんなの認知症情報学会」設立

---

ーみんなが認知症について学び、エビデンスを集積し、「知」の創造を継続的に推進ー

認知症は喫緊の課題ですが、医療やケアは発展途上です。認知症とは、病名ではなく、「正常に発達した知的能力が持続的に低下して日常生活に支障をきたすようになった状態」を指すので、認知症の診断ではなく、認知症の状態像を客観的に把握することが必要です。この度、認知症の医療やケアの高度化に向けて、看護・介護・医療の分野を超えて、当事者(認知症の人や家族)中心で異分野連携を進めるため、新たに一般社団法人「みんなの認知症情報学会(英語名:The Society of Citizen Informatics for Human Cognitive Disorder)」を設立しました。

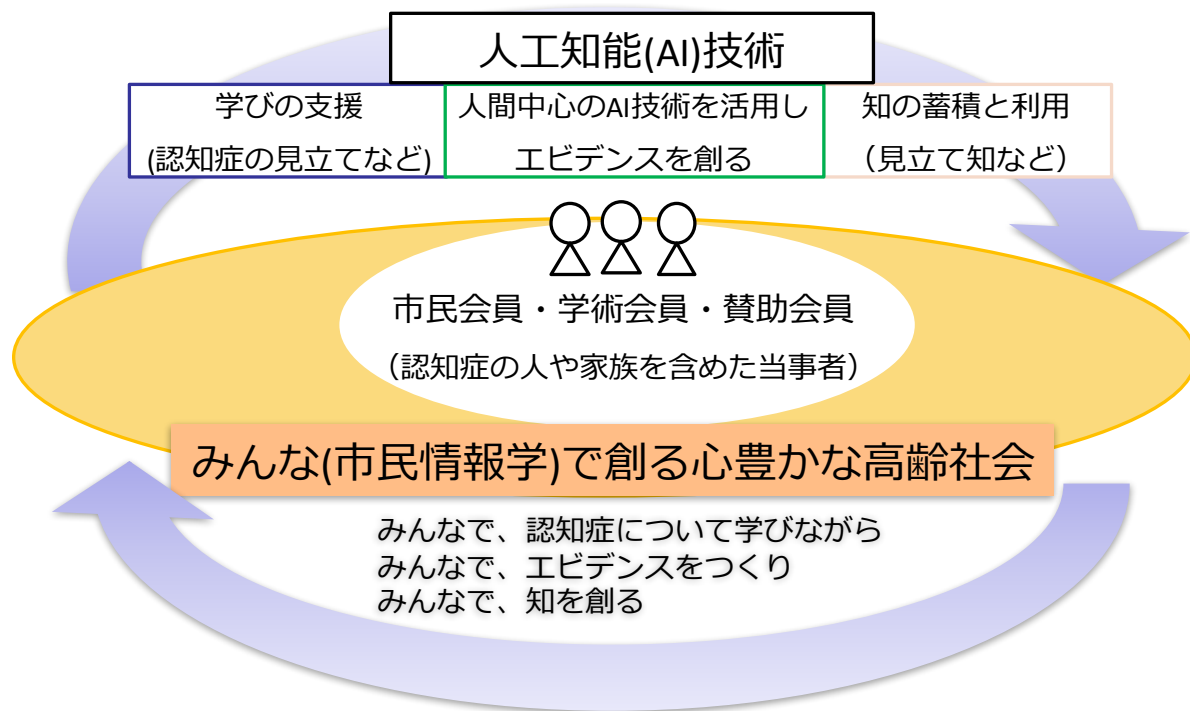
みんなの認知症情報学会では「認知症は個性である」を理念とし、人間中心のAI技術を活用することで、看護・介護・医療の客観化と高度化の促進を行います。また、ITを活用して認知症例に対する「見立て」を協調的に学ぶ勉強会の開催など、一般市民および専門家向けのワークショップを収益事業として継続的に開催します。そして、「見立て」研究会や、認知症の人の行動観察評価に関する研究会を設けて、認知症情報学に関する学術的な活動を推進します。発達障害や統合失調症、介護うつなども対象とします。なお来年秋に、全国大会を開催する予定です。

本学会の理事長には、認知症情報学を提唱した竹林洋一特任教授が就任し、理事には、「見立て」の協調学習方式を開発した上野秀樹特任准教授、パーソナル情報の利活用を推進している橋田浩一教授、元リクルートAI研究所初代所長の石山洸社長、お年寄りが社会資源となる地域を目指す(株)あおいけあのか藤忠相社長、コミュニケーション分析の専門家である桐山伸也准教授、高齢者ケア研究の専門家である小林美亜特命病院教授、先駆的在宅医療に取り組んでいる高瀬義昌医師、メディア処理の専門家である美濃導彦教授など第一線で活躍している様々な分野の専門家が分野の垣根を越えて参画します。また、元厚生労働省社会・援護局長の岡田太造客員教授、元三菱商事執行役員・北海道支社長の永井峻一氏が監事を務め、事務局は、認知症情報学の分野で学位を取得した柴田健一博士が務めます。

事務局は、静岡大学イノベーション社会連携推進機構内に設置し、個人会員(市民会員・学会員・賛助会員)と法人会員(賛助会員)を広く募集します。詳しくはHP(<https://cihcd.jp>)をご覧ください。メール([contact@cihcd.jp](mailto:contact@cihcd.jp))にてお問い合わせください。

### ■主な事業内容

- 子ども、成人、高齢者を対象にした認知症情報学に関する研究・調査ならびに研究・調査に関する成果発表
- 市民情報学に基づく人間の認知障害と認知障害への対応方法に関する研究・社会活動の推進
- 学術集会、研究会の開催
- 市民と専門家を対象にしたワークショップの開催



「みんなの認知症情報学」が目指す安心(心)・安全(科学)な高齢社会  
 —人間中心の AI 技術で、みんなでエビデンスをつくり、知を創る—

## ■役員

### ・理事長

竹林洋一(静岡大学特任教授)

### ・副理事長(五十音順)

上野秀樹(敦賀温泉病院/千葉大学特任准教授)

橋田浩一(東京大学教授)

### ・理事(五十音順)

石山洸(エクサウィザーズ代表取締役社長)

加藤忠相(あおいけあ代表取締役社長)

桐山伸也(静岡大学准教授)

小林美亜(千葉大学特命病院教授)

高瀬義昌(たかせクリニック理事長)

美濃導彦(京都大学教授)

### ・監事(五十音順)

岡田太造(元厚生労働省社会・援護局長/兵庫県立大学大学院経営研究科客員教授)

永井峻一(元三菱商事執行役員・北海道支社長)

## 【お問い合わせ先】

一般社団法人 みんなの認知症情報学会 事務局

〒432-8561 浜松市中区城北3丁目5-1

静岡大学 イノベーション社会連携推進機構 216号室

Tel & Fax: 053-424-5150 Email: contact@cihed.jp HP: <https://cihed.jp>